

がんばれ！
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ②②

サッポロビールを作った侍 村橋久成

サッポロビールを作ったのは薩摩出身の侍だった。今回はそんな話をしよう。侍の名は村橋久成。箱館戦争で新政府軍参謀黒田了介(清隆)のもと、軍監として戦い、榎本釜次郎(武揚)の恭順会見に立ち会い、ま。開拓使が発足すると札幌に麦酒醸造所を建設し、ビールを生産します。これがサッポロビールの始まりです。

久成は薩摩藩士の長男に生まれ、幼くして父を亡くします。この時期、黒船が来航し、幕府は鎖国から開国へ舵を切りました。

国内に攘夷の風が吹きさす中、生麦事件や薩英戦争が起こります。

薩摩藩は慶応元年(一八六五)、国禁を破って外交使節と十五人の留学生をイギリスに送りました。この中に若い久成が含まれていました。

慶応四年(一八六八)、戊辰戦争が勃発



村橋 久成

し、久成は薩摩藩大砲隊監軍として各地を転戦。翌年は征討総督府軍監として、蝦夷地の旧幕府軍を攻め、降伏させました。

北海道の開拓を目指す開拓使が誕生し、明治四年(一八七二)、久成は開拓使に入り、東京

詰めの後、北海道の七重村官園から札幌へ移り、屯田兵の入植地選定などに携わりました。

明治八年(一八七五)、東京の開拓使勸業課長として、青山の三官園を担当する久成に麦酒醸造所の建設が命じられます。でも建設地は官園内です。久成は、「北海道で麦やホップを栽培し、それを原料に麦酒を作るのだから、醸造所は北海道に作るべき」と主張し、開拓長官黒田に直訴し、決定を引つ繰り返しました。

久成はドイツでビール醸造を学び、帰国したばかりの中川清兵衛を呼び、採用辞令を手渡します。

そして雇用契約書に「契約途中で退職するのはまかりならぬ」と書いたのです。久成三十三歳、清兵衛二十八歳。事業責任者と醸造責任者の二人三脚の仕事はこうして始まったのです。男同志の気迫が伝わってくる気がしますね。

開拓使麦酒醸造所は明治九年(一八七六)八月二十三日、スタートしました。大麦は屯田兵



開拓使麦酒醸造所の開会式

の畑から、ホップと酵母は初めのうちは輸入に頼りました。ビールが完成したのは翌年春。わが国における初のビールです。ちょうど西南戦争の最中でした。

ビールは船に乗せられ、東京に送られますが、長い船旅でコルクが抜け、中身が吹き出て船内は泡だらけになり、内務卿の大久保利通に届けられた瓶には一滴も入ってなかったそうです。

こうした経過を辿って開拓使麦酒は発売になり、内国勸業博覧会で有功賞を獲得します。久成らの努力がやっと認められたのです。

ところが博覧会から一年後、久成は突然、辞職を提出します。理由は開拓使の廃止が事実上、決まっていたところへの不満や、上司に対する不満が嵩じたためといわれています。開拓使の官物払い下げ事件というスキャンダルが起こるのはこの直後です。

姿を消していた久成が、神戸郊外で行き倒れになり、亡くなったのは明治二十五年(一八九二)秋。

村役場が新聞に広告して身元が判明、旧開拓使の関係者が集まり、改めて葬儀を行いました。サッポロビール博物館に、その時の葬儀帳や、清兵衛との雇用契約書などが現存します。

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』『北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。